

国際ロータリー第2730地区

高鍋ロータリークラブ

会報



会 長 函 師 義 孝
 副 会 長 石 田 喜 克
 幹 事 山 口 順 一
 例 会 日 毎 週 木 曜 日 12:30~
 例 会 場 ホ テ ル 泉 屋 2F
 事 務 所 宮 崎 県 児 湯 郡 高 鍋 町 大 字 北 高 鍋 1368-4
 ホ テ ル 泉 屋 内 TEL/FAX 0983-21-1636

第 1756 回 平成 24 年 9 月 27 日 プログラム

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 点 鐘 | 7. BOX披露 |
| 2. ロータリーソング | 8. 各委員会報告 |
| 四つのテスト | 9. 次週例会案内 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 10. 点 鐘 |
| 4. 会長の時間 | |
| 5. 幹事報告 | 夜間例会&観月会 |
| 6. 出席報告 | |

2730 地区ガバナー 山下 皓三

中部分区ガバナー補佐 池田 豊繁

2730 地区テーマ

夢・誇り・挑戦 (素晴らしいロータリーの再生)

高鍋ロータリークラブテーマ

「絆」 原点を見つめて一思いやりの心で

9月の月間テーマ

新世代のための月間

本日の例会案内

*夜間例会 18:30~ (場所; 黒木製茶)

*観月会 19:00~

次週例会案内; 10月4日 (1757回)

*月初めのセレモニー *米山ランチ

*会員卓話 *例会終了後理事会

第 1755 回 例会内容

■会長の時間

会長 函師義孝君

皆さんこんにちは。
一週間のご無沙汰で
ございます。



先ず報告です。昨日
パスト会長会を開催し
会長ノミニの件で選
考委員会を作りました。

選考委員に、尾崎君、
木村君、桑野君、岡島君、中武君の5名と、調整役に平
山君にお願い致しました。宜しくお願い致します。

それから、地区大会に於いて高鍋ロータリークラブが
会員増強優秀クラブとして64クラブ中、第3位の賞を頂
きます。皆さんと一緒に喜びたいと思います。

今日は、会長経験の意義についてお話しします。

外国でロータリアンから名刺をもらおうと、会長経験者
は必ずPP (Past President) という肩書をつけている
ことに気づきます。中にはCP (Charter President) と
いう肩書を自慢そうに示す人もいます。ガバナー・ガバ
ナー補佐になるためには、クラブ会長を全期間経験する
ことが義務付けられていますから、外国ではクラブ会長
を経験することは、シニア・ロータリアンになるための
出発点に過ぎないと考えている人が多いようです。

従って、何時でもシニア・ロータリアンになれる資格
としてPPという肩書が重要視されているのです。

日本では20~30代で入会する人は稀ですから、若くて
会長に就任する人も稀です。従って、ガバナーになるの
も遅く、理事はさらに遅く、RI会長を務めるのは年齢的
に不可能というのが現状です。クラブ会長を務めること
がクラブに対する最後のお勤めだと考えてはいけません。

なるべく若いうちに会長を務めて、会長を務めたこと
が、ロータリーの世界で対外的に羽ばたく最初のステッ
プだと考えて、PPという肩書を大切にしてください。

今日もロータリーを楽しんで下さい。

■幹事報告

幹事 山口順一君

<文書案内>

*10月のロータリーレート

1ドル=80円

*地区大会での表彰授与案内

会員増強優秀クラブ=3位

*国際奉仕活動セミナー案内

(議題追記) 10/15~切

*佐土原 RC10月の例会案内 10/3 クラブフォーラム

10/10 特別休会 10/17 職場訪問

10/24 ライラ報告 10/31 委員会活動報告

*西都 RC10月の例会案内 10/2 クラブフォーラム

10/9 外部卓話 10/16 夜間例会PBC交流会

10/23 外部卓話 10/30 職場訪問



■出席報告

出席状況

会 員 数	49名
出席会員数	32名
ホーム出席率	65.31%
前々回修正出席率	%

出席委員長 石井秀隣君



☆新入会員卓話

野田俊一君

＝最近の電力事情及び九州電力の現状について＝



■BOX披露

親睦活動委員長 橋口清和君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

岩切洋君 図師会長山口幹事
石田副会長、先日の都城では大変ご迷惑をおかけしました。



■委員会報告

地区財団セミナー参加報告 会長エレクト 石田喜克君

9月15日(土)の午後1時から高鍋RC図師会長、山口幹事と私の3名で、メインホテルでの地区財団セミナーに参加いたしました。台風16号接近の為、17:00 終了予定が早めになるような感じでしたが、16時半の閉会でした。



内容は、【未来の夢計画】の事が中心で、新業務サイクルが、計画年度と実施年度の2年にわたり、今年度から計画年度となるため、年度前半に会議を集中的に開催すとのことでした。新地区補助金の申請は、人道的プログラムが優先され、地区審査は、先着順で地区補助金の残金がなくなった時点で終了するとのことでした。申請の受付開始は、計画年度の1月1日から3月31日までとなっており、本年の12月初旬くらいまでには、人道的プログラムに沿った計画を煮詰めなければならないようです。会員の皆様のアイデアを期待いたします。複数年に渡る長期的な計画が望ましいとのことでした。交付金の審査は、財団委員長同席のもと補助金・ポリオプラス小委員会でも審査し、交付金額等を決定されるみたいです。

申請額を尊重かつ申請クラブ数、残金によって変更があり得るとのことでした。

財団委員長に指名される方は、できましたら2～3年は、継続でそのポストを担っていただくのが、ベターですとのことでした。クラブでの選考を熟慮して欲しいとのお願いもありました。

既存の奨学金制度(国際親善奨学生)は、本年度で終了し、来年度からはグローバル補助金奨学生と地区補助金奨学生の2通りに変更されます。補助金額もアップされておりますが、グローバルの方は、大学院生のみで1～4年間、地区補助金奨学生の方は、高校生・大学生でも可能であり、金額等は地区が定めるとなっておりました。口頭では伝えきれない面が多々ありましたので、再勉強してから紙面で会員の皆様にお伝えするようにさせていただきます。

8月2日に河原さんのご紹介で入会させていただきました。約1.5ヶ月が過ぎましたが、本日は新入会員卓話ということで、貴重なお時間をいただきましたので、自己紹介を簡単にさせていただきます。最近のマスコミで取り上げられています電力事情及び九州電力の現状について、パワーポイントで説明させていただきたいと思っております。

まず、自己紹介ですが、私は昭和33年2月生まれで、現在54歳です。昭和51年に高校を卒業しまして、日南営業所に入社し、その後、日向営業所、宮崎支店に異動し、昭和61年に福岡の本店総務部に異動しました。その後、長崎に3年間異動した以外の23年間は本店勤務であります。私は今年で会社生活37年目ですか、そのうち30年間は管財業務を担当しています。管財業務は、九州電力の土地建物の取得・管理・運用・処分のごとで、不動産関係の仕事です。今回、26年ぶりの宮崎勤務として高鍋に参り、ロータリーにも入会させていただきましたので、これから、いろいろと勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

自己紹介はこれまでとしまして、それでは、最近の電力事情及び当社の現状について、パワーポイントで説明させていただきます。

まずは、九州電力の思いと行動指針についてであります。高鍋ロータリーの入会式で、図師会長からロータリーの四つのテストの額をいただきましたが、その内容を見た時、近江商人の三方よしを思い浮かべました。これは、売り手も、買い手も、世間もよしとなる商売は、良い商売で永続的な事業継続が可能になると言われています。私が言うのも何ですが、当社も電気を売ること、お客さまに喜ばれ、社会の発展に寄与する事業である思っております。今年で62年を迎えました。この精神に基づきまして、九州電力の思い、行動指針を制定しています。九州電力の思いは、ずっと先まで明るくしたい。快適で、そして環境にやさしい、そんな毎日を子どもたちの未来につなげたいという思いです。具体的には、

- ・地球環境にやさしいエネルギーをいつまでもしっかりとお届けすること。
- ・「なるほど」と実感していただくために、お客さまの声や思いをしっかりと受け止め、サービスでお応えすること。
- ・九州とともに、そしてアジア、世界へ皆さまとともに行動すること。

・語り合う中から、答えを見出し、行動すること。
に挑戦しつづけることとしています。

また、行動指針は、自ら考え、行動する。お客さまのために、地域のために、仲間のために、子どもたちのためにです。この行動に当たっては、ロータリーの4つのテストは良い判断になると思います。

それでは、本題の最近の電力制度の動きについてです。

まず、エネルギーミックスについてです。

エネルギーミックスとは、発電所の電源構成のことで、原子力、火力、水力等の割合はどれくらいがベストかということでもあります。昨年3月以前は、エネルギーリスクや地球温暖化対策を踏まえ、原子力を中心とした電源構成でしたが、昨年の原子力発電所の事故により、ゼロベースで見直すこととなりました。

エネルギーミックスの基本的方向性は、

- ・省エネルギー、節電対策の抜本的強化
- ・再生可能エネルギーの開発、利用の最大加速化
- ・化石燃料の有効活用
- ・原子力発電への依存度のできる限りの低減 です。

具体的なエネルギーミックスの選択肢は、マスコミ報道でご存知と思いますが、原子力を2030年にゼロする。15%にする。20%~25%にする。の3つの選択肢となりましたが、7月からの国民的議論などを踏まえ、政府のエネルギー・環境会議において、9月14日に「2030年代に原子力発電稼働ゼロを可能とする」という方針が示され、閣議決定は行わず、参考扱いとして文書に残すこととなりました。この問題点としては、

- ・地球温暖化対策や化石燃料枯渇問題。
- ・電気料金上昇といった国民負担や経済への影響。
- ・原子力技術、人材の喪失。
- ・化石燃料輸入の価格交渉で足元を見られるリスク。
- ・青森県の核燃料サイクルの継続とゼロベースの相違問題。など、さまざまな課題がありますので、今後その当たりの課題を整理していく必要があります。

次に、電力小売りの全面自由化ですが、既に、2,000KWの特高については、平成12年から自由化され、500KW以上は平成16年から、50KWは平成17年から自由化されていますので、全体の60%は自由化になっています。今回、50KW未満の一般家庭などを含むすべての消費者にまで電力自由化範囲を広げるかどうかについて、検討されています。また、発送電分離についても検討されており、現在の体制は、発送電の垂直一貫体制となっていますが、送配電部門を別会社として分離する法的分離と、送配電の系統運用を独立系統の運用機関に委託する機能分離が検討されています。送配電部門などを資本関係のない別会社にする所有分離は、会社分割の法的問題などから現時点では外されています。

この制度改革のメリットと課題ですが、制度改革のメリットは、お客さまの選択肢拡大、料金低減・サービス向上、ネットワーク利用の透明性向上、再生可能エネルギー等の新規参入拡大などです。一方、制度改革の課題としては、電力供給の最終的な責任を誰が担うかという

ことです。小売りの全面自由化の課題は、事業者破綻等における電力供給者の確保や僻地・離島お客さまに対するユニバーサルサービスの確保があります。ユニバーサルサービスとは、離島においても料金が本土と一緒、また、災害時の対応なども、本土並みに早期復旧を行うことなどです。送配電線分離の課題は、発電設備や送電設備などの一体的な整備・運用策や事故災害時における早期復旧に向けた情報連携などがあげられています。これらの課題整理を含めて、年内目途で検討が進められています。

次に、九州電力の現状ですが、まず、ベストミックスについて、ご説明させていただきます。

このグラフは電源構成を示していますが、昭和48年及び昭和54年の二度のオイルショックにより、石油不足や石油が高騰したことから、エネルギーセキュリティの面からも原子力を中心とした電源構成に舵が取られています。具体的な当社の電源構成は、水力16%、火力56%、原子力26%となっています。特に原子力は、全国は21%ですので、当社は国策に寄与していると言われていました。

参考までに、日本のエネルギー自給率は4%であり、原子力のウランリサイクルを入れても18%でありますので、ほとんどを海外からの輸入に依存していますので、非常に脆弱なエネルギー自給率となっています。

次に当社の再生エネルギーについてです。

当社では、風力・太陽光・水力・バイオマスなどの再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。具体的には、風力41万KW・全国比15%、太陽光72万KW・全国比20%、地熱21万KW・全国比40%となっています。

当社の取り組み実例としては、風力は鹿児島県の長島に50,400KW、太陽光は大牟田の港発電所跡地約8万㎡に3,000KWが運開しており、長崎の大村発電所跡地21万㎡に1.3万KWが建設中であります。

また、川南町のみやぎきバイオマスリサイクルでは、年間13.2万トン、県内の約6割の鶏糞を焼却し、11,350KWの発電を行っています。焼却灰は肥料として利用することで、野積みによる悪臭や土壌汚染、河川の水質汚染等の環境問題の改善にも貢献しています。

次に、再生可能エネルギー買取制度についてです。

今年の7月1日から再生可能エネルギーの固定買取制度が始まりました。買取期間及び単価は、10KW未満の場合、10年契約の1KW当たり42円です。10KW以上は、20年契約の42円となっています。ここに高圧の手続きを示していますが、まず、当社の配電線又は送電線に接続可能かどうかの簡易検討依頼を出していただき、当社で接続可否を回答します。それを受けまして、事前接続検討依頼を21万円の検討料を振り込んでいただき、申し込んでいただきまして、当社は所要工期及び工事負担金の概算をはじめ、その結果を回答します。それを受け、事業採算性を検討していただきまして、国への届出後、接続契約兼接続検討依頼を出していただきまして、当社は工期及び工事負担金額を算出し、回答します。それを受け、工事負担金契約及び振込みをしていただきまして、

それぞれに工事を行い、その後、各種契約、受給開始ということになります。この契約単価は、来年の3月31日までに電力受給契約の申し込みを行い、6月30日までに受給開始した場合に適用されます。高鍋営業所では、すでに100件程度の簡易検討依頼があります。

次に宮崎の電力事情についてご説明します。

宮崎県の水力発電所は、30箇所195万kwで、当社の水力発電所の5割を占めています。この中には、小丸川発電所120万KWが含まれています。こうした中、宮崎でつくる電気の量と使う電気の量ですが、かつて宮崎は、「水力大国」と呼ばれ、県内の電力を宮崎県でまかっていた。しかし、昭和51年度以降は消費電力が発電電力量を上回っており、その差は拡大しております。

平成21年度は、発電量20.5億KWに対し、消費量は73.8億KWでしたので、7割は他県から送られています。

次にお客さまへ電気が届くまでですが、当社は発電、送配電の垂直一貫体制となっており、発電から送配電までの全ての責任を持つことで、電力供給の安全性及び品質の維持を図っています。また、離島においてもユニバーサルサービスを実現しています。

次に今夏の受給実績についてです。

今年の7月2日から9月7日までが、計画停電の検討対象期間でしたが、お客さまには計画停電を回避するため、一昨年比10%の節電をお願いしました。結果としては、計画停電を回避できました。これもひとえに皆さまの御協力の賜物です。この場を御借りしまして厚く御礼申し上げます。今年の受給実績ですが、時間最大は7月26日の1521万kwでしたので、当初予想より110万kwの減となりました。また、気温は33.5℃でしたので、当初予定より約1℃下がりました。受給想定との差ですが、当初予定では、供給面では原子力の停止等により、1560万kwを想定し、一方、需要は昨年の7%の省エネ実績を踏まえ、気温は一昨年並みと想定し、1634万kwとしましたが、この場合、75万kw不足しますので、約25万kw高圧のお客さまとの調整契約で対応し、残りの3%に当たる50万KWにつきましては、お客さまに更なる省エネをお願いするということで、一昨年比10%の省エネをお願いしたところでありました。結果としては、50万KWの省エネ達成に加えて気温が予想より1℃下がった影響で60万KW削減しましたので、合わせて110万KW削減の1521万KWとなりました。供給面では、大飯原子力発電所の再稼動による電力融通増や雨が多かった影響での出水増により当初予定より66万KW増の1626万KWとなりました。これにより、計画停電を回避できましたこと、改めてお礼申し上げます。

最後に、当社社長の瓜生からメッセージを9月7日にマスコミを通じてお客さまに出しています。

内容は、お客さまや社会からの信頼の再構築を目指し、企業活動の透明性や組織風土の改善、電力の安定供給に、全社一丸となって取り組むこと。責任あるエネルギー事業者として、電力の安定供給に強い使命感を持って取り組むこと。経営収支の改善に向け、徹底した効率化・コ

スト低減に取り組むこと。グループをあげてCSRの推進に取り組むこととあります。

高鍋営業所としてもお客さまへの電力の安定供給に向けて、日々努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。ご清聴ありがとうございました。



木村君



日高君



職業奉仕委員長 岩切君



ソングリーダー 橋口君

「ロータリーの綱領」

ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある。

1. 奉仕の機会として知り合いを広めること
2. 事業及び専門職務の道徳的水準を高めること
あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そして、ロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること
3. ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活、および、社会生活に常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門業務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること